

Special Feature

志村けん KEN SHIMURA

【ザ・ドリフターズ】



会場入口には、志村けん一座旗揚げ公演を祝した数え切れないほどの花が並んだ。

志村けん一座旗揚げ公演『志村魂』（シムロン）

日本一のコメディアン“志村けん”が、日本一のお笑いを目指し“志村けん一座”を旗揚げ

『8時だヨ！全員集合』～『加トちゃんケンちゃんごきげんテレビ』～『志村けんのバカ殿様』～『志村けんのだいじょうぶだあ』～『志村“X”』（後に『志村“XYZ”』～『Shimura“X” 天国』）～『集まれ！ナンデモ笑学校』～『神出鬼没タケシムケン』～映画『鉄道員』～『志村けんの FIRST STAGE ～はじめの一步～』～『志村けん・中山秀征のい～ん～でないの？』～『変なおじさん TV』～『志村けんのだいじょうぶだあ II』～『志村通』～『志村塾』～『天才！志村どうぶつ園』など、1974年に荒井注に代わって“ザ・ドリフターズ”の正式メンバーとなつて以来、テレビを中心に大活躍し、日本一のコメディアンの地位を確立した志村けん。“東村山音頭”、“ひげダンス”、“カラスの唄”など、子供の頃にリアルタイムで『8時だヨ！全員集合』を見ていた世代にとって、志村けんは特別な存在だ。

以前から「大きな劇場で舞台をやりたい」という夢を抱き、これまでにしも下北沢の本多劇場で年一回のペースで4年間、だいじょうぶだあファミリーによる公演（コント）を行ったり、bunkamuraのシアターコクーンで、“ジュリー”こと、沢田研二と組んだ舞台『さあ、殺せ！』（作・演出は先日亡くなった久世光彦氏）を行ったりしたが、遂に長年の夢であつた自分の一座を率いての劇場での舞台公演となった。著書でも述べていたように、『バカ殿』～『ドタバタコント』～『（藤山寛美の舞台のような）泣き笑い芝居』の夢の3本立ての座長芝居が実現したその瞬間に立ち会えたことに感謝感激した。

【2006年4月18日（13時公演）東京芸術劇場中ホールにて 取材&文：加瀬正之】



撮影＝谷古宇正彦

第一幕『バカ殿様』より

《キャスト》
志村けん
（ダチョウ倶楽部）
肥後克広
寺門ジモン
上島竜兵
池田成志
山口もえ
坂本あきら
清水宏
池田鉄洋
西村直人
くまきりあさ美
及川奈央
種子
小森未未
二本奈緒
久下恵美
木村智早
田原恵美
（キーボード奏者）
芦田由夏
多岐川裕美
地井武男

志村魂

《脚本・演出》
ラサール石井
《脚本》
朝長浩之
ケリー・サンドロヴィッチ
妹尾匡夫



変なおじさん / 志村けん著
出版：日経BP社
発行年月：1998.10/ 税込価格：¥932

The Walker 4



変なおじさんリターンズ / 志村けん著
出版：日経BP社
発行年月：2000.10/ 税込価格：¥1,050

『変なおじさん』の続編。
コント・酒・女・友・人な
ど志村けんが本音で語っ
たエッセイ。秘蔵フォトシ
ムケン写真館も必見！



変なおじさん（完全版） / 志村けん著
出版：新潮社
発行年月：2002.10/ 税込価格：¥580

『全員集合』『バカ殿様』
と歩んで来たお笑い人生
を振り返った作品。ビビ
リたけしや爆笑問題等に
ついてもメントも必見！

志村けん一座旗揚げ公演『志村魂』開催

まず、志村けん一座の“座長”、志村けんの元に集結したスタッフ、キャストの顔ぶれが凄かった。

演出には、「コント赤信号」のメンバーで、近年は舞台にも力を入れているラサール石井。脚本には、そのラサール石井に、長年、志村けん出演の番組に構成作家として携わってきた朝長浩之。1985年の『劇団健康』旗揚げ、92年に結成した演劇ユニット「ナイロン100℃」で、脚本・演出を手掛けるケラリーノ・サンドロヴィッチ。そして、伊東四郎一座旗揚げ解散公演や三宅祐司率いる「スーパード・エキセントリック・シアター」の舞台などを手掛けてきた人気構成作家、妹尾匡夫の4人。

共演者には、お馴染みのダチョウ倶楽部の肥後克広、寺門ジモン、上島竜兵の3人。「第三舞台」で俳優活動を開始し、数々の舞台をこなしてきた池田成志。その天然キャラで、バラエティ番組やCMで活躍する山口もえ。1973年の『東京ヴォードヴィルショー』旗揚げに参加し、95年に退団後も舞台、TVなどで幅広い活躍をみせる坂本あきさ。「山の事務所」での活動以来、舞台、ソライヴや自ら設立した劇団「乱発タックル」、アニメの声優としても活躍する清水宏。2004年に旗揚げたコントユニット「表現・さわやか」をはじめ、舞台やTVドラマで活躍する演劇界のホープ池田鉄洋。『イーストウィックな魔女たち』をはじめ、舞台を中心に活躍する西村直人。TVやグラビアで活躍するまきりあさ美に、映画・TV・ラジオ・CMで活躍中の及川奈央。舞台～TV～映画～声優など幅広い活躍をみせる種子。新体操インターハイ優勝の経歴を持ち、TV『志村けんのバカ殿』でも活躍する小森美樹。舞台を中心に活躍する若手女優の二本奈緒、久下恵美、木村智早、芦田由夏。自ら作曲・編曲を手掛け、ライブやスタジオで活躍するキーボード奏者の田原恵美。そして、東映映画『聖闘者学園』でデビュー以来、映画・TV・舞台で活躍する多岐川裕美。1968年に岡本喜八監督の映画『新る』でデビュー後、『太陽にほえろ!』『北の国から』をはじめ、TV・ラジオ・CMと幅広く活躍している地井武男と、まさに豪華絢爛、錚々たるメンバーが集められた。



撮影＝谷古宇正彦

第一幕『バカ殿様』（脚本：朝長浩之）

まず、どん帳が上がる前に登場したダチョウ倶楽部の3人。『殿〜!』とバカ殿を探しながらの前列の客いじりで会場を沸かせてくれた。今回、このダチョウ倶楽部の3人の存在は、まるで長さん以外のドリフのメンバーを思わせるような重要な役割を果たしていたと思う。

和太鼓の音色に乗って、いよいよ志村けん扮するバカ殿の登場かと思いきや、その太鼓を叩いていたのがバカ殿本人というお披露目シーン…。ダチョウ倶楽部風と言えば「掴みはOK!」。客席から大爆笑が起こると共に、生バカ殿の登場に割れんばかりの拍手が沸き起こった!

途中、側用人に扮するダチョウ倶楽部の竜ちゃんに弄ばれ、バカ殿が仕返しに竜ちゃんの顔を側面から容赦なく飛び蹴りするシーンがあったが、この場面では、志村けんの愛情と芸人魂を感じた。蹴りが入った瞬間、「ピキッ」と嫌な音が鳴ったのでかなり痛かったはずだが、蹴られた竜ちゃんも痛みと笑いを堪え踏ん張る…。その表情が何とも可笑しかった。このツッコミは、ドリフ時代といえども志村けながドリフの付き人時代の相棒と組んだコンビ「マックボナン」の芸風に似ているのかもしれない。(最初は「チャーミングコンビ」という名前だったが、「ふざけんな」(by 長さん?)との指摘で改名したらしい)

また、バカ殿と腰元役に扮する及川奈央が二人で風呂に入ってお約束のお色気シーンもあったが、やがてバカ殿が一人数取り残され灯りが暗くなる。あの『全員集合』でも、「志村〜、うしろ〜」と子供達の声が聞こえてきたようにここでもお約束のお化けが登場。風呂釜の縁に無数のお化けの手が現れ、絶妙な間て笑いを誘うシーンなどは、ドリフの黄金時代を思い出さずにはいられなかった。

また、バカ殿お馴染みのキャラ、家老役で出ていた地井武男が良かった。私生活で再婚し、若い奥さんをもった地井に、台本通りともアドリブともれない執拗なツッコミでいじり倒す志村の言葉に、顔を背け、肩を震わせながら素で素でしまう地井の表情・草草が可笑しかった。

勿論、「アイ〜ン!」や「うれしい〜な〜」での踊り。腰元の手を取り「ジイ、布団を敷け!」の名セリフや、側用人に扮するダチョウ倶楽部のメンバー等に弄ばれ、尺八 BGMと共に背後の日本刀を手に取り、斬り付けようとするバカ殿お馴染みの名物シーンの数々も惜しみなく再現!

オープニングから観客のハートを掴み、細かい演出やアドリブで、隅々まで徹底的に笑いを追求した第一幕『バカ殿様』。あつという間に時間が過ぎ去ってしまっただけ、テレビの画面とは違って生で体感するバカ殿様の臨場感は最高だった!



志村流 金・ビジネス・人生の成功哲学
志村けん著 出版：マガジンハウス
発行年月：2002/3 税込価格：¥1,365



志村けん わたしはあきらめない
NKK「わたしはあきらめない」制作編 出版：KTC中央出版
発行年月：2003/2 税込価格：¥1,470



これでカラダがいよいよだ〜! 志村けんのスポーツ健康術
志村けん著 出版：アスコム
発行年月：2003/10 税込価格：¥1,365



撮影＝谷古宇正彦

第一幕『コントライブ』
(脚本：朝長浩之、ケラリーノ・サンドロヴィッチ、妹尾匡夫)

ここからは3人の作家と“コント職人”志村けんの真骨頂が冴めるショートコントの10連発！あの『8時だヨ！全員集合』の後半戦を思わせるお馴染みのコントから新作コントのオンパレードで、会場全体を大爆笑の渦に巻き込んだ。

最初のコントは、志村けん扮する父親を囲む家族の食卓シーンで始まる「食事と音楽」。一連のコントのセットや作りを見てしじみを感じたが、背景や家屋・家具などが全てドリーフのコントで馴染んでいた様に、昭和の時代を醸し出していたのが良かった。懐かしい、やっぱり落ち着く。

シンプルだけど笑えたのが「ボキボキ」。中年サラリーマン役の志村と及川奈央扮するその彼女が、ダチョウ倶楽部の肥後&ジモンと清水宏扮するチンピラ3人組に絡まれ、リーダー役の肥後が指の骨を「ボキボキ」と鳴らして威嚇。その威嚇に對抗して、志村が背骨を脱いで「ボキボキ！」と指の骨を鳴らしたかと思えば、続いて腕、肩、上半身、下半身と体全体がボキボキ鳴り出し、最後は気持ち悪くなってみんなが逃げ出すというシンプルな構成なのだが、この単純明快なくだらなさとした中年サラリーマン役の志村の表情や身のこなしが最高だった！

「つっぱり」では、学生に扮したつっぱりAの西村直人〜つっぱりBの地井武男が女学生と一人ずつ絡んでいくが、3段落ちというかたちで、最後に登場するカヅナで学ランを着込んだ素に近い志村けんの姿にまず爆笑。そして、容赦ない「ハゲ」ネタが炸裂して客席は大爆笑！かなり笑えた。また、テレビながら学生服姿で演技する地井武男も可笑しかった。

バックに流れる井上陽水の曲も印象的で、志村けんの代名詞的役柄のひとつである老人（じいさん）役がじいさんの味を出していた「背中を押して」。続く、同じじいさん役の志村と主婦役の多岐川裕美が絶妙な絡みをみせた「メンはまだかい」も最高だった。通夜で飲みすぎた洗濯屋という役だが、ドリフのメンバー「加トちゃん」こと加藤茶と並んで志村けんの専売特許ともいえる酔っ払い芸が冴めた「洗濯屋」は、今思い出しても笑ってしまう。

また、途中で次のコントの準備に取り掛かる間に幕が下り、ジャズっぽいアップテンポの曲をバックにスクリーンに映し出された映像作品も凝って見て楽しめた。チャップリンやバスター・キートンなど昔の無声映画の主人公の顔に志村けんの顔がCG合成された映像が数分続いたのだが、チャップリンに憧れた志村けんのお笑いに対する敬意を感じたというのは大げさかもしれないが、遊び心満点で、あの意表を付いた斬新なアイデアは素直に笑えた！

その他の幕間に流れていたアース・ウィンド&ファイアーやオフスプリングのナンバーなども、きっと志村けん自らの選曲なのだろう。舞台上で魅せるお笑いの顔とのギャップがいい。

無声映画のCG合成映像以外に、もうひとつスクリーンに映し出された『遺書』というタイトルの短い映像作品も良かった。筆を持ち、遺書を書く手元だけの映像なのだが、遺書を書いていた紙の上に、手に持っていたいざをひっくり返してしまい、慌てて拭き取ろうとすると続々さまにコーヒー〜カップラーメンをこぼし、挙句の果てには入れ歯〜カツラまで落として、最後は遺書を書くはずの紙をぐちゃぐちゃに…というもののだが、シュールで笑えた。バカ役やコントなど演者の顔の表情・しぐさ・セリフで笑わせる以外にも、無声で、しかも手元の映像だけで笑わせるという発想は新鮮だった。もっと見てみたい！

そして、『コントライブ』の最後に登場したのが、志村けん自身もそのキャラクターを愛して止まなかったひとみばあさんのコント「ひとみさん」。新宿にある志村けんの馴染みの居酒屋に実在した人物を元に作ったキャラクターだ。両手両足を包帯で巻かれた入院中の病人役のダチョウ倶楽部の肥後と、志村扮する付添人役のひとみばあさんとの絡みは絶品だった！年寄りなので呼吸をしているだけで変な声が出てしまうひとみばあさんは、愛くるしくも面白すぎ！ただのおばあさん役なら演技の上手い芸人も多いが、年を取っても女であることを忘れず、下ネタには敏感に色気というあの絶妙な演技は志村けん以外にはできないだろう。

約10分ごとにキャラを演じ分けるという息をつく暇もない展開と『8時だ！全員集合』時代から全く衰えることを知らないあの身のこなしや絶妙な間の取り方に、まるでテレビ画面に釘付けになっていた子供頃の、『全員集合』全盛時代にタイムスリップしたかのような錯覚を覚えた。こんな感覚はここ最近無かった気がする。

この第一幕『コントライブ』の後だったか、次の第二幕の人情劇の前に披露した、三味線演奏の後だった思い出せないが、スクリーンにヒトラーや坂本竜馬などの歴史上の人物が次々に映し出され、CG合成でみな丸出しにさせられるという映像もあったが、微妙に斜め立ちの尻の映像が妙に可笑しかった。



志村流 遊び術
志村けん著 出版：マガジンハウス
発行年月：2004/2 税込価格：¥1,365

The Walker 6



志村流 当り前のことが出来れば、仕事も人生も絶対に成功する
志村けん著 出版：三笠書房
発行年月：2005/2 税込価格：¥650



発売元：ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン
「志村けんの大冒険 DVD-BOX」
価格：10,290円（税込）

ファンが待ち望んだ超人気番組「志村けんのパカ股番組」が初DVD化！傑作コント、お宝映像等をまとめた超豪華セット。

第二幕『紙の舞』

トリを飾る第二幕の人情劇に先立ち、志村けんが一年前から上妻宏光に救われてきたという津軽三味線を披露してくれた。元々、ビートルズに憧れてギターを弾いていたこともあって、さすがに上手い。ステージを照らすスポットライトで笑いを誘った後、キーボード奏者の田原恵美を迎え、三味線の師匠、上妻宏光作曲の『紙の舞』を披露。紋付袴姿に真顔で三味線を弾く志村けん。ふと、ドリフの5人が揃って三味線を弾いていたお正月恒例の『新春かみ芸大会』を思い出していたが、真顔で三味線を奏するその顔は、志村けんではなく、本名の志村康徳(56歳)に近かった気がする。また、演奏が終わると、ステージの背景に“魂”の文字が浮かび、ミュージシャン志村けんの真面目な一面を見せてくれたと感動したのも束の間…。粋な袴姿で客席に背を向けると袴の尻部分が大きくカットされ、尻丸出しという約束といえどお約束の演出！不意を突かれた観客の大爆笑を誘ったのはいうまでもない。どこまでも笑いを追求し、笑いのツボは外さないそのお笑い職人の精神はさすが志村けんだ。

第二幕『一姫二太郎三かぼちゃ』 (原作：茂林寺文福 潤色：ラサール石井)

いよいよ『志村魂』もクライマックス。志村けん自身が昔から好きで、舞台も観に行き、長年その芝居を演じることを夢見ていたという伝説の喜劇役者、藤山寛美の代表作『一姫二太郎三かぼちゃ』の芝居。六人兄弟の中で唯一出来が悪いが、心優しい田舎に残って父母の面倒をみる三男の三郎役を演じる志村けん。田舎を捨てて出て行ってしまった兄弟たちが母親の喜寿を祝いに実家に集まるという設定で、出来の悪い三男をバカにして、自分が東京でいかに成功しているかを自慢する兄弟たちとの葛藤や家族愛を描いた人情話。その渾身の演技で、時に笑わせ、時に泣かせる“舞台役者”志村けんに会えた気がした。ストーリーもさすがに素晴らしく泣けたが、この感動は実際に見てもらう他ない…。

これで遂に終演かと思っていると、スクリンに浮かぶ「おまけ」の文字が…。幕が上がるのと、舞台の端から端まで並んだ昔懐かしい『8時だヨ！全員集合』の後半のコントで見かけたような木の堀の



撮影＝谷古宇正彦

セットが現れた。刑事役の寺門ジモンに連行される容疑者役の上島竜兵。その妻役の及川奈央と娘役の小森未来が登場し、ひと騒動あった後、「キヤ〜」という声と共に駆け出す及川奈央に、ドンピシャのタイミングで堀の扉から飛び出し抱きついたので、何と「変なおじさん！」この想定外の変なおじさんの登場に会場も大興奮！最後の最後まで客を笑わせようとする「日本一のコメディアン」志村けんの本領発揮となった！生で見る変なおじさんには本当に感動した。

出演者全員が並んでのカーテンコールが2回。20分間の休憩を挟んで約3時間半にも及ぶ公演が終了。志村けんの舞台とあって客層も幅広く、席を立つ観客達との顔にも満足気な表情が浮かんでいた。「もう一度見たい」と素直に思えた人も多かったはず。志村けんがやりたかったことの全てが凝縮されていたようで、「日本一のコメディアン」志村けんを隔々まで堪能することが出来た満足感は大きい。そのお笑い魂「志村魂」をとくと味わうことができた最高の公演だった。

4月6日からスタートした舞台も後半を迎え、これだけ濃密なステージを連日、時に一日2回こなしてきたため、体調管理も大変だっただろう。声をからしながら『バカ殿様』『コントライブ』『一姫二太郎三かぼちゃ』と様々なキャラクターを熱演する志村けんの姿…。昭和チックで、あのドリフの一連のコントを彷彿とさせる

セットの数々…。今にもステージの袖から黄色いメガホン片手に「オイッス」と叫ぶ長さん(故いかりや長介)が出てきそうな気配…。志村けんが当時と変わらぬ奮闘ぶりで動き回ると、当たり前のように一緒にいた加トちゃん、高木ブー、仲本工事の姿は美しい…。笑いながらも、毎週土曜日の夜8時になるとテレビの画面に釘付けになったあの『8時だヨ！全員集合』の名シーンが走馬灯のように蘇り、感動と懐かしさとの流れを感じて、妙にジーンと来てしまう瞬間が度々あった。それは、まるで映画『ニュー・シネマ・パラダイス』のラストシーンで目を潤わせる主人公のような気持ちだった…。

ビジネス的に考えれば、舞台よりもテレビで活躍を続けた方が絶対にいいのかもしれない。そこをあえて、生の舞台でテレビ以上のものを見せてくれる志村けん。ドリフの精神を決して忘れない心意気にも感動させられた。今は亡き「ザ・ドリフターズ」のリーダー、いかりや長介さんめきと天国で喜んでいらないかい…。

最後に、昔から言われていたことだが、言葉が通じない外国人が見ても腹を抱えて笑えた「ザ・ドリフターズ」のコント。自分の一座を率いて日本全国を旅して回るといった夢を持つ志村けんだが、全国制覇を成し遂げた後には、全米進出→世界進出を目指して欲しい！今の日本のコメディアンの中でその夢を実現できるのは、志村けんしかいないのだから…。

志村けんの音楽遍歴

中学生の時にビートルズのファンになった志村さん。その影響で高校時代は長髪にタートルネックの格好で通し、高校2年生の時にそのビートルズが来日。志村さんが日本武道館で見たビートルズ公演は、後に加入することとなるドリフターズが前座の日ではなかった…。やがてお笑いの道を選択する志村さんは、ドリフターズとコント55号のどっちの門を叩くかで迷うが、「音楽の要素が入ったのをやりたい」とドリフターズを選ぶ。一時、ドリフのメンバーでソウル音楽をやろうとしたがダメだったそう(志村さんはリズムギターで参加)。その後、『8時だヨ！全員集合』の名物コーナー「ウーゲンダス」の音楽で知られることとなった志村さんのソウル・ミュージック嗜好は、ビートルズからサナタ・ハードロックを聴き、ドリフの付き人時代あたりからソウルに興味を持ったという。オーティス・レディングの「セキユリティ」や「トライ・ア・リトル・テンダス」(この曲はライブがお薦めだそう)などが好きというからかなりの通だ。その他、CCR、ニーナ・シモン、ジブシー・キングス、ユーライア・ヒープ。邦楽では、大ファンだったという柳ジョージや吉田拓郎から、こまどり姉妹、次次郎、長瀬剛まで幅広く聴き、最近では宇多田ヒカルの声が好きだという。そして、CDよりもレコードが好きという志村さん。近い将来「ギタリスト」志村けんにスポットを当てた本格的なミュージシャンの顔も見てみたい。(出典：『変なおじさん 完全版』志村けん著 新潮文庫)